

# モニター通信 No.6

皆さんから寄せられた「モニター通信 2月分」を紹介します。

## 「20年後の日本に物申す」

～次世代に伝えたいこと、未来に向けたあなたのメッセージ～

### モニターから No. 1

現在、消費税が10%になろうとしているところだが、既に人口は減っていて若者が多くの高齢者を支えるということが分かっているのに、増税に踏みきるのが遅い。20年後の自分には、今よりも生活しにくいとは思いますが、子や孫の負担にならないように、出来る限り医療費などかからないように努力して、健康を保つようにしたい。

### モニターから No. 2

世の中にはファストフードやファストファッションがあふれています。安価で手にすることの出来るこれらの商品は、手軽かつ便利で、若い頃にはとても魅力的に見えました。しかし、これらの生産を支えるために多くの石油・電力が使われ、大量のゴミが溢れかえっている現状を考えると、利便性を求めるばかりの商業スタイルに疑問を感じています。

年を重ねるに連れ、手間暇かける仕事の素晴らしさに気付き、今はなるべくスローライフを心掛けるようにしています。食生活においては、毎日昆布と鰹節で丁寧にお出汁を取る事や、大豆と麴で自家製味噌を仕込むことなどを、衣服に関しては古い着物を活用したり、手縫いで綿入れ袴纏を縫ったりと、出来る範囲で少しずつ取り組むようにしています。

このような生活を心掛けるようになってから、作り手の後継者問題などにも関心を持つようになりました。昔ながらの良いものが、どんどん廃れて消えていってしまうのは本当に残念なことです。少しくらい不便でも、生産効率が悪くても、業績が右肩上がりでもなくとも、それでも世の中はバランスを取りつつ、なんとか回っていくのではないのでしょうか。

原発・雇用・待機児童・少子高齢化・過疎化など様々な問題の中で、色々な考えがあるかと思いますが、世の中の流れが上を上をと目指し過ぎているのではないかと感じます。もっとゆるやかな、のんびりとした暮らし方があることを忘れないでほしいと思います。そして少しでも、そのような心豊かな社会を目指し、古き良きものを残していこうと志す人々が増えてくれることを願います。

### モニターから No. 3

日本は世界に類を見ない少子高齢化が進んでおり、20年後を見据えた展望は非常に難しいと思いますが、何よりも現在「お金」さえあればとの拝金主義が誰にも心にあると思います。最近、少しずつ芽生えて来つつあるのが、人間的な本来の姿を取り戻そうとする意識が出始めたということが分かります。俗に言う金や名誉でなく、健康で明るい毎日を誰もが享受出来る社会になって欲しいと願わずにはられません。70歳を過ぎた今、誰しもが毎日笑顔で暮らせる社会が構

築されるように、本当に微力ながら社会貢献に邁進して参りたいと思っております。

#### モニターから No. 4

東日本大震災、原発事故から5年を過ぎた現在でも東北三県、特に福島の現状を見聞きするに、あまりにも今後5年・10年先が描けない。超高齢化社会、人口減少社会に向かって性別・年齢を問わずに、健康で働ける限りは行政の力だけに頼らずに社会参加をしたいと思う。

子、孫の世代が希望を持って生きるためには、今この我々世代の個々人が意識して食のあり方、生活のあり方、そして最終医療のあり方等検討しなければならないことが沢山ある。特に最終医療のあり方については、10年・20年先を見据えて早急に検討すべき事柄ではないでしょうか。

#### モニターから No. 5

- ・ 20年後の日本に伝えたいこと

資源を大切に

- ・ 未来の自分へ

超高齢化社会になっていると思うけど、年金もらえてますか？楽しく生きてますか？楽しく過ごせるよう努力してますか？ロボットにお世話になってますか？

難しいテーマですネ。

#### モニターから No. 6

ここ20数年の間に、日本では大きな地震が2度もありました。また不況も長く続きました。その一方でITの普及はめざましく、パソコンやスマホが私たちの生活を大きく変えています。これから20年後、世の中がどのように変化しているのか想像もつきません。ただ私自身が普段から感じ、次の世代にも伝えたいことは「備えておくことの大切さ」です。

「備える」とは、地震や災害に対して水や食料品を備蓄しておくことだけではありません。病気やリストラといった個人的な出来事に対しても少しでもその大変さを減らすよう、経済的・体力的な力を蓄えておくことや、仕事や生活に役立つ知識や技術を磨いておくことです。現在は世の中の変化が激しく、これまでは思いもよらなかった事象が次々と現れています。詐欺や悪徳商法の手口にしても、少しでも知識があれば防げたというケースは少なくないでしょう。

また、以上のような良くないことだけでなく、目の前に現れた絶好のチャンスを自分のものにするためにも、備えておくことは必要だと思います。

#### モニターから No. 7

20年前は1996年(平成7年)携帯電話会社の建設工事に携わって、毎日が22時過ぎの帰宅でしたが、生き甲斐がありました。楽しかったです。昭和33年に就職して以来、電気通信を含む日本の近代化に向けたインフラ設備の拡充の中で仕事をしてきましたが、本当にやりがいのある人生でした。20年後の今、出来上がった社会を見て近代化が完成した今日と思います。子供たちは私たちが経験したことをなぞり、さらに発展に挑戦しています。

ここでモニターテーマに戻りますと、一言で「生き甲斐のある人生を送ってほしい」ということです。科学技術の発展で今日を一変する社会が出来ると思いますが、そこには人の心が生きていくはずで、生き生きした心は、人々を楽しく、そして幸せにします。

人間はずるくではいけません。人を不幸にします。やるべきことを手抜きして自分だけ楽をしたり、ごまかして一儲けするような人生は必ずしゅ返しがあります。昨今の賞味期限切れ前の食品の横流しの例。また話は飛びますが、これなどは貧困子育ての子供たちに差し上げて美味しい食卓を囲めるはずでず。少しでも不幸な生活をしている人々に対しては、まずは手を差し伸べ助けてあげて、一般社会に足並みをそろえさせることが大切と思います。それには官民一体になって、私たちは社会の発展の中で、常に監視役を務めて行く必要があります。

20年後の日本の皆さん、今より飛躍してください。力強い意志と優しい心をもって。

#### モニターから No. 8

「20年後の土浦」について

人口は横ばいか減少していくと思います。土日を除いて歩いている人が少ない。文化施設が少ない。車道と歩道の段差がある。畳石の歩道は、凹凸があつて歩きにくいし、自転車も不便です。車道が中心になっているのはやむを得ないとしても、車免許放棄は早すぎたと思っています。

#### モニターから No. 9

20年後の日本、高齢者問題は自然に解消していくでしょう。心身共に老い衰えていく人が暮らしの中で、何事も自発的にサービスする。とにかくばかみたいに意識的に根気よくやる。気力まで衰えても、自分の世界が少しだけ広がっていくことを喜ぶ。その点は、お年寄りも大人も子供たちもみんな同じだと思います。

派遣や非正規という今の雇用制度は、日本人がみんなワイワイ言いながら作り出したものです。私たちの若い頃は、学校出たてで何も出来ない何も判らない人でも就職先で教育し、正規雇用で今よりは比較的安定した生活が出来ていました。時代は繰り返すというので、再びそうなるのではと思って期待しています。

70数年前、同じようにみんなワイワイ言いながら戦争に突入していった日本が支払った犠牲を思えば、ぞーっとします。もっともっと酷い状態に陥る必要があるのでしょうか？若い人たちが可哀そうです。

#### モニターから No. 10

今から20年後、いったい世の中はどんなに様変わりしているのか、想像も出来ない。20年前はどうだったか考えてみると、携帯電話などあつたかもしれないが、今ほど普及していなかったし、子供たちが友だちと遊ぶのは外で元気に走り回っていたし、少なくともゲーム機ではなかったはずだ。

どんどん世の中が便利になっていくのはありがたいけれど、これくらいは機械ではなく人がやるべきと思うところも多々ある。ある程度の線引きも必要になると思う。上手くつきあつていかないと、映画のようにロボットに支配されるなんてことも起きかねない。

何でもかんでも機械まかせで楽をすることを覚えてしまうと、人間の尊厳を失ってしまうのではと、危惧してしまう。

#### モニターから No. 11

私の20年前は〇〇歳。あれから20年、あつという間に過ぎてしまった。そして今から20

年後・・・また、あっという間に過ぎていくのかもしれませんが。

次世代に伝えていかなければならないこと、戦争体験者の貴重な声だと思います。私が子供のころ、よくおばあちゃんから戦争の話を聞きました。学校でも戦争の写真やマンガでいろいろな体験を教えて頂きました。でも実体験した方はどんどん亡くなってしまい、生の声を聞くのは難しくなりつつあります。私がおばあちゃんに教えてもらった体験・・・次世代に伝えねばならないと思います。

それから震災の体験。自分の身は自分で守る的なこと、防災訓練の大切さ。こちらは自分でも体験していますので、こちらにも伝えていかなければならないと思います。戦争も震災も、命に関わることです。そして忘れてしまう。風化してしまわぬよう、きちんと伝えていく必要があると思います。

#### モニターから No. 12

厳しい冬をのり越え、春を待つ。そして夏秋、この繰り返しで1年はあっという間に過ぎてしまいます。20年後の日本？もうその頃には、この世には居ないであろう私ですが、子や孫、ひ孫が暮らすこの日本は、どんな風になっているのでしょうか。想像しただけで、胸がときめきます。

日本列島を北海道から鹿児島まで新幹線で旅する日もそう遠いことではなさそうですし、街中は空気をよごさない電気自動車を中心の時代になるのでしょうか。建物も、耐震のしっかりしたものに変わっていくことでしょうか。しかし、それらを動かすのは人間、私たちですから、いつの時代もおごらず真面目に、その時代に即応した行動で平和な住み良い社会であって欲しいと切望します。物価も安いに越したことはありませんが、先ず安全第一、21世紀を生きる私どもの子孫たちが幸せに平和に一生を終えられることを心から願って筆を置きます。

#### モニターから No. 13

巷ではフロイトと並ぶアドラーという心理学者の本が売れているようです。基本になる考えは、過去にとらわれず前を向き、自分を変えようと思えば変えられるというポジティブ思考です。

20年後の日本は今より良くなっているのでしょうか。こうした本が売れている背景には、自分や世の中を変えたいと思っている人が多くいるということなのだと思います。不安定雇用、介護問題、身近な問題だけでも良い方向に向かって欲しいのです。国を動かしていくのは、有権者の私たちです。未来の日本がその変化に気付き、国や世界を変えていくことが今後の課題だと思います。

#### モニターから No. 14

消費生活展に参加して

初めて参加(2回)し、生活展の内容等が少し理解出来ました。しかし、もっと参加人数が増えればと思いました。事前のPR不足(広報・チラシ折込)、当日の呼び込み方法、子供から大人まで興味を示すもの・・・。なかなか難しいことですが、一考要します。各地区公民館へのポスターやチラシをどれだけ置かれているのか。この生活展の内容が消費者側に行き届き、生活の中で話題化するには・・・。何事にも無関心という層が増加もしている昨今だから、インパクトのある内容と広報の重要性が問われています。情報化社会、どこに居てもすぐ必要なものが手に入る時

代だが、参加することで内容が見え、ありがたさを感じる。

今後もお一層工夫して、活気ある行事になることを切に望みます。

#### モニターから No. 15

20年後は、自分は生きているか疑問である。今より確実に温暖化が進み、環境的に厳しい状況があると思われる。石油が枯渇し、人口減少が進み、超高齢化社会にあり入院施設の不足でパニックになることが予測される。年金枯渇、税金の高騰で、ますます貧富の差が拡大すると思う。

そのため、今から節約儉約的な生活を過ごして欲しい。そして健康寿命を伸ばせるよう、酒・タバコは禁止にして、健全な生活を過ごして欲しい。

#### モニターから No. 16

私たちが育った時代は世の中がまだ貧しく、でも頑張って働けば明るい未来が有る・・・！と信じられました。それで、確かに豊かになり、巷に物が溢れる時代になりました。それがまたまた変わり、終身雇用は揺らぎ、若者たちの雇用は不安定になり、結婚せず、出生率は下がり続け、人が減り続ければ国力は下がり・・・と不安の材料は多々あります。

でも若い方々には、「今出来ることを精一杯努力して取り組んでいけば、未来は明るい」と信じて進んで行ってと願っています。

#### モニターから No. 17

20年後・・・長寿社会の波に乗り、自分は生き長らえているか、否か。それはともかく、未来の日本に向けて遺言はたくさんあります。

- ・無くして欲しいもの(日本だけでなく、世界にですが)

先ず、戦争・テロ・原発・国の借金・いじめ etc.

- ・大切に残して欲しいもの

思いやりの心・もったいない精神。勸善懲悪の時代劇等も悪くない。昔の男子の雑誌には、まんが本付録がついていて、時代劇まんがには「ひきょうもの！」という言葉がよく使われていた。多勢で一人をいじめる等はひきょうものとする恥ずべき行為だと、今は誰も教えないのだろうか？この解り易いインパクトのある言葉を死語にしないでもらいたい。

また、広い意味では人類がこれ以上地球をいじめる方向に行かない様に祈ります。

#### モニターから No. 18

20年後は、どれ程住みやすい日本ですか。きっと今以上に何でも手に入る世の中でしょう。しかし、便利になった分、失っている物があるはず。

昔のようにお肉屋・お米屋・酒屋とのやり取りから、会話の生まれないスーパーやコンビニ、宅配での買い物。大家族の生活から核家族での孤独な育児や老後。それにより、きっと「こころ」が薄いものになるだろう。

バリアフリーや暖かく涼しい家、掃除機や乾燥機付き洗濯機など。それにより、きっと「からだ(筋肉)」が薄いものになるだろう。

そして知らず知らずのうちに、外も中も空っぽの人間になっていく。そんな環境に無意識に流された生活を過ごさないで下さい。そして子や孫へ、行動で示してその意識を伝えていって欲しい。

いです。思いやりがある元気な日本へ！！

#### モニターから No. 19

こんにちの日本を見てみると、経済の不安定・雇用不安・消費税増税・マイナス金利、更には認知症の増加による介護負担等、今後に期待が持てるのものは何一つないと言ってもいい状況です。若者に今後の日本に夢と希望を持って、と言っても無理な話かもしれません。

しかし、日本には多くのノーベル賞受賞者を輩出する環境と、世界でも突出した科学技術、そして世界に誇れる思いやりの精神があります。現在、将来の展望すら見い出せない若者が多いと思いますが、先人の築いてきた功績に感謝し、築き上げられた生活基盤を更に向上させ、日本の誇れる知恵を引き継いでいってほしいと思います。

そして私たちも、若者の手本となるよう何らかの形で、社会に少しでも貢献できるよう努力していきたいと思っています。

#### モニターから No. 20

20年後の日本に伝えたいことは

(1) 20年後の予測では、人口減少下で少子高齢化は進む。高齢者は個人消費者として、今以上に無視できない存在になる。年金、介護制度とともに消費税、買い物弱者対策などの社会インフラ整備の確立も少子化対策と同時に進行し、若者から高齢者まで安心して暮らせる社会になってほしい。

(2) ネット社会が到来し、マネーレス、ネットバンキングが汎用され、さらにマイナンバー制度も拡充される反面、個人情報流出や特殊詐欺を防ぐセキュリティを備えた情報管理システムの確立が重要になる。

(3) 食品流通もTPP参加をはじめグローバル化が進み、規制緩和もなされるだろう。食の安全基準の見直しが問われるようになる。

(4) 今年、電力小売りの自由化が始まるが、ますますエネルギー資源利用の複雑化は環境問題と一体化している。

このような中、消費者支援のAIロボットの活用に加え、生活様式の多様化が進み、消費生活を見直す時代になっているかもしれない。

#### モニターから No. 21

20年後というと、運が良ければ私も後期高齢者になっているでしょう。20年前を振り返ると、まず携帯電話を持っている主婦や子供は少なかったと思います。ましてや、今のようなインターネット社会は想像できませんでした。そのことを考えると、20年後の社会がどんな風になっているか想像できません。

ただ、もうすぐ初孫が産まれるのですが、その孫が20歳になった時、笑っていられる社会であって欲しいです。テレビでは、子供の虐待のニュースが後を絶ちません。もっと子育てを重視して、宝であるべき子供を社会全体で守っていくことが、人口も増やしていき国にも活力がわいてくるのではないのでしょうか。

## モニターから No. 22

土浦市の消費者モニターだから、「日本」に物申すというほどのことも書けないけれど。足元の土浦市、駅前からのシャッター通り、観光資源はなく文化都市でもないということが20年後に解決できるのか。施政も市議会もそういうことに向かって何の努力をしているとも感じられない。

有名な絵画が一枚あるだけで、その美術館に遠方から見に来る人たちがいる。音楽ホールで、有名な音楽家が演奏するというので遠方から聴きにも行く。水戸芸術館まで東京からさえ聴きに行く人たち。土浦市の美術館には、文化的施策に予算を取らないからロクな展示物がない。市民会館の催事は、お金をかけないのと運営者の教養の程度が低いからカラオケ大会同然の文化的魅力には欠けるモノばかりで、遠方からなど聴きに来るはずもない。

インフラがいくらか整備されつつあるのに、道路を走ると異常なスピードで意味もなく追い抜き・割り込み・すり抜けていく軽自動車たち。東京駅まで乗り入れた土浦始発の常磐線の電車に荒川沖駅から75歳の私が99歳の母を連れて乗っても、私たちが乗り込むまでは優先席で起きていた人たちが突然居眠りを始めて、席を譲ってくれない。いつも上野駅まで立ちっぱなし……。大きな駐車場を備えた市内あちこちのパチンコ屋は、朝の開店と同時に満員になるとか。なんの生産性もなく、そこでお金を消費しつつ一日を過ごす大人たち。20年後には教養を身につけ、精神的に向上した市民であってほしい。

## モニターから No. 23

少子高齢化の急速な進展で、今後より一層社会保険料の負担増、加えて受給できる年金額は減額され、消費税の増税も予想されます。今の若者は奨学金を利用して大学生を送る学生が多いそうです。しかしながら、返済に苦しむ者も多く、返済出来ない事例も少なくないという話も耳にします。非正規雇用の増加、ブラック企業の蔓延など雇用を取り巻く環境の厳しさが、その背景にあるように思われます。一方で、高齢者の経済的格差や貧困を取り上げる報道も相次ぎ、社会問題となっている昨今。

このような厳しい社会情勢の中、地域の住民を救済する消費生活センターの存在は、今後益々重要な役割を担うことと痛感致します。私も未来、そして老後に向けて悲観的になるばかりではなく、日々出来得ることを実行していけたらと思います。

## モニターから No. 24

日本の戦後の復興は、多くの無名の人々の努力と忍耐により築き上げられたという歴史を、学ぶことを忘れてはいけないと思う。1945年8月15日のポツダム宣言受諾により戦争状態から原則的に開放され、翌16日は平和の時代の暁へと変わった。戦争時代から平和時代への転換は、1日にして行われたのです。このことは、1日にして戦争状態に入ることの危険性は常に存在するという事です。私はいま、現代の世界情勢を眺めると、私たちの先輩が多大な苦勞を積んで獲得した平和な時代は、瞬時にして失われるかもしれないと危惧しています。

20年後の世界はグローバリゼーションが極致に達し、日本への移民・難民の受け入れや貿易自由化も進んでいることでしょう。そのような中で、私たちが日本人としてロイヤルティやプライドを持って世界に向けて行動するには、戦後日本の歩みをしっかりと学び、確知する必要があると思います。

## モニターから No. 25

美しい環境と地球を守るため、日本人の心の中にずっと伝わってきた「もったいない」精神を受け継ぎ、次の世代に継承していきたいと思います。日本人は昔から米一粒も無駄にしない「もったいない」という感覚が生活の中にありました。現代社会では色々な物が溢れ、多くの物が捨てられています。食品ロスは最たるもので、リサイクルにも多大なエネルギーを要します。震災後は節電・節水がさかんに聞かれましたが、次第に忘れられている感じがします。

今を生きる世代は、自分たちの満足だけではなく未来の世代のために、古くからあった「もったいない」という気持ちを大事にする暮らし方を学ぶべき時期だと思います。本当に質的に豊かな生活とは何か。日々の暮らしの中で新しい生活価値観、新しいライフスタイルを求める自立した消費者であることを伝えていきたいと思います。

## 消費生活モニター・開発活動（3月19日）

